

1 研究主題

「確かな学び 広がる音楽」

～知覚・感受をもとにした音楽的思考力・判断力・表現力の育成～

【研究の視点】

- ① 知識・技能を活用し、一人ひとりに主体的な学びを促す活動の工夫
- ② 一人ひとりが明確な思いや意図をもち、伝え合う中で学びが広がる活動の工夫
- ③ 仲間と協働する喜びを感じながら音楽を表現したり味わったりする活動の工夫

2 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の具体的内容

①授業研究

- ・ 年間2本の授業研究を行う。
- ・ 子どもの実態をとらえ、それに応じた題材の構成と学習のめあてを設定する。
- ・ 児童・生徒が生き生きと主体的に学習に取り組むことができる授業展開と学習の手立てを講じる。
- ・ 子どもたち一人ひとりが楽曲に対する思いや意図をもち、音楽的な感性を存分に働かせながら学習に向かう姿をめざす。

②我が国や郷土の伝統音楽に関わる研究

- ・ 伝統をどう捉え考え、どのような方法で取り組んでいくのか（講師招聘）
- ・ それぞれの領域（歌唱 器楽 音楽づくり 鑑賞）で授業実践をし、発表することで意見交換する中で力量を高めていく。
 - ・ 小学校：わらべうた 民謡 雅楽 太鼓 箏など
 - ・ 中学校：長唄 能 琴 三味線など
- ・ 実技講習：長唄と三味線にチャレンジ（講師招聘）

(2) 研究の方法

- ・ 教育研究日10回（うち授業研究会2回）
- ・ 講師による学習会・講習会の充実

(3) 報告書作成参加者、共同研究者

共同研究者	廣瀬 敦子（大和小教頭）		
山梨支会	平井 祥子（加納岩小） 小林 直子（山梨南中） 萩原 久子（笛川中）	金子佐由美（山梨小） 筒井美佐子（山梨南中）	武井 浩（日下部小） 山本 順美（山梨北中）
甲州支会	鈴木 千秋（塩山南小） 古屋 雄人（塩山中） 武藤真由美（勝沼中）	鈴木奈津美（大和小） 水上 陽介（塩山北中）	竹川 美和（塩山中） 平山 昌実（松里中）

(4) 具体的経過

	研究日	内 容
第1回	5月8日	・役員の決定と組織づくり ・研究テーマ及び研究計画について
第2回	5月22日	・本年度の研究について ・春季教研還流報告
第3回	6月12日	・学習会「確かな学び 広がる音楽」 ～知覚・感受をもとにした音楽的思考力・判断力・表現力の育成～ 講師：大和小 廣瀬 敦子 教頭先生
第4回	8月9日	・研修会「伝統的な音楽 長唄を学ぶ」 講師：東音会 小林 百合先生
第5回	8月28日	・授業研究「歌詞の内容や曲の背景を手掛かりに歌唱表現の工夫をしよう」 授業者：甲州市立塩山北中学校 水上陽介先生
第6回	9月18日	・今年度の研究の経過と今後の見通しについて

～授業実践より～

子どもたちが学んだことや学んできたことを手がかりとして試行錯誤しながら、他者との協働によって考えを深め、生き生きと主体的に学習していけるような授業づくりの工夫が求められている。音楽科においても、指導者の一方的な教え込みではなく、子どもたちが主体的に活動する中で音楽的感性を十分に働かせ、音楽の世界を広めていけるような授業をしていく必要がある。

今回の授業は、楽曲をその曲の背景などと関連させながら、音楽を形作っている要素（音色、強弱）と楽曲に対する自分の思いや意図を関わらせ、歌唱表現をすることに重点をおいた実践である。

子どもたちは、タイトルとなっている花の名前や由来、背景などから、歌詞にどのような気持ちや込められているのかを考え、一人ひとりが自分なりのイメージを膨らませて表現しようとしていた。今回あえて「Ahー」の部分にしぼって考えさせたことで、自由に想像でき、また知覚と感受を関連付けた表現の工夫ができていたといえる。

研究会では、教科としての目標を忘れずにいること、教師の思いはあるが、子どもたちに考えさせ、思いや意図をもたせる授業を仕組むことが大切であること、そして主体的な学びにつながる教師の的確な発問と ICT の効果的な活用など、今後授業に活かしていきたい事を多く学ぶことができた。

また、今回は歌唱表現において音程などの技能が身についた子どもたちだったが、不十分な子どもたちにはどんな手立てがあるか、歌詞からの表現の工夫もあるが、音の抑揚やつながりからも工夫ができるのではないかなどについても話し合われ、多くのことを学ぶ機会となった。

これからも小中の連携をもとに9年間を見据え、子どもたちが仲間とともに音楽の世界を広げていけるような実りある研究をしていきたい。

(文責：鈴木)

第3学年音楽科 学習指導案

甲州市立塩山北中学校

指導者 水上 陽介

1. 題材名 歌詞の内容や曲の背景を手掛かりに歌唱表現の工夫をしよう

2. 題材の目標 歌詞の内容や曲の背景を理解し、表現を工夫する。

第2学年及び3学年A表現(1)ア, (1)イ(ア), ウ(イ), 共通事項(1)ア

3. 題材について

(1) 題材の構成

本題材は、学習指導要領「第2学年及び3学年A表現(1)ア「歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること」、(1)イ(ア)「曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを理解すること」、及びウ(イ)「創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けること」を実現するための題材である。

この題材では、楽曲をその曲の背景などと関連させながら、音楽を形づくっている要素(音色、強弱)と楽曲に対する自分の思いや意図を関わらせ、歌唱表現を工夫することに重点を置いている。タイトルとなっている花の名前や由来、背景などから、歌詞にどのような気持ちが込められているかを考えさせ、歌詞の内容と自分のイメージを関連させる中で、自分なりの表現を創意工夫し、その工夫を生かしてより深い歌唱表現ができるよう学習を進めていきたい。

(2) 本題材で位置付ける〔共通事項〕

〔共通事項〕		学習内容
ア	強 弱	曲にふさわしい強弱や音色(曲にあった発声)の設定
	音 色	

(3) 本題材における生徒の実態(3年A組 28名)

とても意欲的な生徒たちである。これまでは、音楽を形づくっている要素およびそれらにかかわる用語や記号について、理解しながら表現する学習を行ってきた。また、共通教材を通して、歌詞の意味と表現を関連させる授業を行ってきた。学習を通して、基本的な表現力は身につけてきている。

多くの生徒が季節部の合唱部に所属しており、パート練習では、リーダー中心の練習から、リーダー以外の生徒もお互いにアドバイスをしあう等、主体性の向上が見られてきている。しかし、パート練習の内容に関しては、姿勢、音を正しくとること、楽譜に記載されている記号の通りに歌うことなどが中心となっているため、合唱曲に関して、生徒が自主的にその曲の背景と関連させながら歌詞の意味を理解し表現を工夫する経験はほとんどない。本題材を通して曲の背景や歌詞の意味などを手掛かりに、生徒自ら表現の工夫ができるようにしていきたい。

3. 教材について

〔使用教材〕 混声合唱とピアノのための組曲 みやこわすれ より
 「みやこわすれ」 野呂 昶 作詞 千原英喜 作曲

〔教材選択の理由〕

この曲は、混声合唱組曲「みやこわすれ」の終曲である。題名になっている「みやこわすれ」はキク科の花の名前である。その花の名前の由来は、承久の乱に敗れ、佐渡に流刑となった順徳上皇が、この花の美しさでかつて暮らしていた都への思いを紛らわせていたという伝えから来ている。このような歴史的事項をテーマに作詞・作曲されており、「曲想と曲の背景との関わり」や「曲想と歌詞の内容との関わり」を理解しやすい。

4. 題材の評価規準

ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能
①歌詞の内容や曲想に関心をもち、曲にふさわしい歌唱表現に意欲的に取り組もうとしている。	①音色・強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①歌詞の内容や曲想、言葉の特性を生かした歌唱表現をするための技能を身に付けている。

5. 題材の指導と評価の計画（全3時間）

	◎ねらい ○学習内容・学習活動	◇指導上の留意点	評価基準【評価方法】
1	◎強弱や発音を意識しながら音とりをする。 ○「みやこわすれ」を鑑賞する。 ・「みやこわすれ」を鑑賞し、曲全体の流れをつかむ。 ○「みやこわすれ」の音とりをする。 ・強弱や発音を意識しながら、「みやこわすれ」の音とりをする。 ○「みやこわすれ」を合唱する。 ・練習したことを意識しながら通して歌う。	◇楽譜上に書かれている強弱や、発音を意識させる。 ◇録音をしておく。	ア - ①歌詞の内容や曲想に関心をもち、曲にふさわしい歌唱表現に意識的に取り組もうとしている。 【観察】

2 (本時)	◎歌詞の内容や曲の背景を理解し、表現を工夫する。			
	○前時の学習を振り返る。 ・「みやこわすれ」を歌う。			
	○曲の背景や、歌詞の内容について理解する。 ・曲名の由来や歴史的背景から、歌詞に込められている思いを理解する。	◇生徒が興味を引くように、ICTを用いて提示の方法を工夫する。		
	○曲の背景や、歌詞の内容を手がかりに、各自で表現を工夫する。 ・歌詞に込められた思いにあった表現を工夫する。	◇特に強弱や音色に着目して工夫するよう支援する。	イー① 音色・強弱・を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫している。【ワークシート】	
3	◎創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせる。			
	○前時の学習を振り返る。 ・「みやこわすれ」を歌う。			
	○各自の意見を、共有する。 ・「a-」の部分の前時の意見をもとに、みんなで歌ってみる。	◇多様な意見があつてよいことを伝える。		
	○クラス合唱としての表現を工夫する。 ・意見を交流し、クラス合唱としての表現を考える。	◇録音をしておく。 ◇複数の意見が出た場合は比較聴取する。		
	○創意工夫した合唱を歌う。 ・考えた表現をもとに、「みやこわすれ」を通して歌う。	◇録音をしておく。	ウー① 歌詞の内容や曲想、言葉の特性を生かした歌唱表現をするための技能を身に付けている。【観察】	
	○自分たちの合唱を比較聴取する。	◇1時間目の録音と、本時の録音を比較する。		

6. 本時の展開 (第2時)

(1) 日 時 令和元年8月28日 14:00～

(2) 場 所 塩山北中学校 音楽室

(3) 本時の目標 歌詞の内容や曲の背景を理解し、表現を工夫する。

(4) 本時の評価規準

- ・歌詞の内容や曲の背景を理解して音楽表現を工夫している。(音楽表現の創意工夫)

(5) 学習評価の進め方

○おおむね満足できる状況 (B) と判断できる生徒

- ・歌詞の内容や曲の背景を手掛かりに音楽表現を工夫している。

○十分に満足できる状況 (A) と判断できる生徒

- ・歌詞の内容や曲の背景を理解して、自分の思いと、音色・強弱の働きが生み出す特質や雰囲気を関連させて、音楽表現を工夫している。

○「努力を要する」状況と判断されそうな生徒への対応

- ・強弱、音色の選択肢を提示しながら、指導者と一緒に試してみる。

(6) 学習の展開

課程	学習内容と学習活動 ☆主な発問	○指導上の留意点◆評価基準【評価方法】
導入 (5分)	1 ウォーミングアップ ・発声練習	○心と体をほぐし、音楽活動を意欲的に行えるようにする。
展開 (40分)	2 前時の振り返り ・教材曲を歌う。	○前時の学習をいかして教材曲を歌う。
	めあて 歌詞の内容や曲の背景を理解し、表現を工夫しよう。	
	3 歌詞の内容や曲の背景を理解する。 ・曲名の由来や、歴史的背景を理解する。	○生徒の興味を引くように、提示方法を工夫する。
	4 歌詞の内容から表現を工夫する。 ・もう一度教材曲を歌ってみる。 ☆工夫した部分はどのような所だろう。 ・どのように表現を工夫したか振り返る。 ☆「aー」の部分について、表現を工夫しよう。 ・強弱、音色にポイントを絞り、思いや意図をもって、表現を工夫する。	◆イー① 【ワークシート】
	5, 自分が工夫した表現方法で歌う。 ☆全員でそれぞれの考えた表現方法を試してみよう。	○それぞれの表現方法で歌って構わないことを伝え、自分の思いが表現できるよう指導する。

	<p>6, 各自が考えた意見を発表する。 ・「aー」にどのような思いが込められているか、そのためにどのように表現を工夫したか。</p> <p>7, もう一度、自分なりの表現方法を考える。</p> <p>8, 再度自分が工夫した表現方法で歌う。 ☆もう一度全員でそれぞれの考えた表現方法を試してみよう。</p>	<p>○自分の思いを、言葉で表現する。</p> <p>○他の意見も参考にしながら、歌詞に込められた思いと、表現について再考する。</p> <p>○自分の思いが表現できるよう指導する。</p>
まとめ (5分)	<p>9, 本時の振り返りを書く。</p> <p>10, それぞれの意見をもとに、次の時間にクラス全体で考えをまとめることを伝える。</p>	

7、成果と課題（授業後の研究会より）

（1）成果

- 導入の発声練習がシステマチックで、良かった。
- ICT を効果的に使用したことにより、生徒の主体的な学びにつながった。
- 歌詞ではなく「ah～」の部分を取り上げたことで、自由な想像が出来た。
- 生徒の変容が見られる授業であった。
- 生徒が、自分たちの合唱についての課題を具体的に挙げるなど、主体的な活動が見られた。

（2）課題

- 強弱の変化は見られたが、音色の変化については生徒の引き出しが少なかったのではないかとよい。
民謡や長唄など、様々な歌唱法に触れさせていくとよい。
- 異なる意見が出たときに、歌ってみるだけでなく、それを聴取して意見を交流する場面があるとよい。
- 表現の変化は見られたが、表情に変化が見られなかった。

（3）指導助言（鶴田指導主事、広瀬教頭）

- ・生徒が素晴らしい。
- ・ICT が効果的に使えており、それが生徒の思いや意図を引き出すのに有効に作用していた。
- ・生徒に考えさせたいこと、方法が明確に示されており、目標と合っていた。
- ・考えさせるポイントを「ah」に絞ったのが良かった。
- ・生徒の意見を言葉で板書したが、拡大楽譜に書きこんだ方がより分かりやすかったのではないかと。

8, その後の経過

3時間目では、前時に歌った「ah」の部分を強く歌うパターンと、弱く歌うパターンを聴取し、意見を交流させた。その結果、より思いを込めやすいという考えからクラスとしては強く歌うこととなった。授業の最後に行った1時間目との比較聴取では、「声が柔らかくなった」「言葉が聴き取りやすくなった」などの感想が出た。

その後、パート練習を行っていく中で、「ah」の前部分である「ただ切なくくるしく」の場面をもっと丁寧に力強く歌うために少し速度を遅くしたいという意見が上がったため、全員で速度に変化をつけて歌ったところ、より言葉や思いが伝わるということになり、速度に変化をつけることとなった。

さらに、バスパートからは、「くるしく」という言葉を、強くはっきりとうたいたいが、音域が低く出しづらいため、どのように練習をすればよいかという、自分の思いに技術を近づけるための質問が出てくるようになった。

今後も、歌詞と表現を関連させる授業を多く取り入れ、さらに生徒自ら表現の工夫がしていけるように指導や援助を行っていきたい。

○この時間を通して、あなたはどのようなことが意識できるようになりましたか。

強弱はもろくですが、それはかえりとして意識するようになりました。
歌詞の情景に合わせてどの声で歌うか、どういふ音で歌うか、そして
頭の中でその場面を思い浮かべながら歌った。
その時の順とくこのうの気持ちで歌うから自分の心にただく添えこいて
とて歌えることである。

○この時間を通して、あなたはどのようなことが意識できるようになりましたか。

今までは、かえりにかいてある記号だけで強弱を意識してたけど、
背景や情景を想像しながら歌うことができた
(他人の意見とよく)

○この時間を通して、あなたはどのようなことが意識できるようになりましたか。

歌詞の意味を意図しながら歌えた、
息をこのながら歌えた、
か強いところと、弱いところのくハツ外、しっかりくようになった、
強弱にだけなく、息やあつたも歌えた。

○この時間を通して、あなたはどのようなことが意識できるようになりましたか。

今でも、想像に歌うようにはいってたが、さらに鮮明に思い浮かぶ
ことが出来、まるで自分が順次天幕に居たかのように思える
歌うことができた。 「R-」 の歌詞にその感情を込める
ことができた。他人の意見をよくとて新しい解釈ができた。